

# メガボンドによるコンクリート面への タイルの施工要領

日 藻 工 材 株 式 会 社

〒174-0043 東京板橋区坂下2-13-18

TEL03(5392)1007

# メガボンド施工要領

## 1. 適用範囲

この施工要領はコンクリート面に対してのタイルを張付けする際の施工方法に適用します。

## 2. 材料の保管

材料の保存期間：密封状態で製品受取後2ヶ月以内とし、開封後は直ちに使用して下さい。

材料の保管場所：屋内に保管して下さい。但し、コンクリート面に直に置く事は避けて下さい。  
又、水濡れは厳禁です。

## 3. 作業条件

- ① 作業時の気温は5℃以上40℃以下として下さい。
- ② 施工時に直接雨が当たらないようにし、強風や直射日光はオープンタイムが短くなります。シートを張る等の必要な養生をして下さい。
- ③ 塗付け後は早期に乾燥する恐れのある場合は、シート掛け等による適切な乾燥防止策を講じて下さい。
- ④ 冬期は塗付け後、早期に降雨、降雪に遭うと、白華の発生や夜間の低温低下により、凍害を受ける恐れがありますので、十分な養生と作業を早めに切り上げる等の対策を講じて下さい。
- ⑤ 使用する水はすべて水道水として下さい。
- ⑥ タイルは50二丁か50三丁までのモザイクタイルが望ましい。

## 4. 作業手順

### (1) 下地の点検

a.脆弱部・レイトンス・油分がないかを確認し、あれば除去する。

### b.凸部の処理

ディスクサンダーで凸面を削り平滑にして下さい。

### c.段差及び欠け面の補修

水湿しを行い、メガボンド20kgに珪砂6号10kgを加えたもので補修処理をして下さい。

### (2) 下地の清掃

コンクリート表面のゴミ・ホコリ・切削時の粉塵等を、ブロアーやブラシを使用し、触った時に手についてこない程度まで取り除いて下さい。

### (3) 水湿し

全体に均一に噴霧器等により十分に水湿しをして下さい。

### (4) メガボンドの下コスリ

水湿しをした後、1時間以内に軟らかめに練ったメガボンドモルタル(メガボンド20kg・水7ℓ)で1.5mm厚にコスリ塗りをして下さい。

※最初少なめの水で硬練りし、徐々に残り水で軟らかさを調整するとママコが出来にくくなります。

## (5) タイルの張付け

### a. 張付けモルタル

メガボンド20kgに対して水6ℓを入れ、ハンドミキサーを用いてダマのなくなるまで混練りします。

### b. 塗付け

メガボンドによる下コスを終え、2～3時間以上経過して乾いた面に塗り厚3～4mmに塗りつけて下さい。1回の塗り面積は3㎡以内として下さい。クシ目立ては10分以内で、タイルが張れる面積にとどめて下さい。やむをえず10分以上経過してしまった場合は、掻き落とし、再度塗り直して下さい。

※天候によっては10分間に限らず、皮張る場合があります。タイル裏面の付着具合を確認しつつ早め早めの張付け作業して下さい。

### c. タイルの張付け

タイルはたたき板等で、たたき押えながら張付けます。たたき押えは全面にわたって充分に行って下さい。

### d. 塗り厚の確認

接着モルタルはタイルの裏足に空隙が生じない様、完全に回り込ませる必要があります。所々タイルを剥がして確認して下さい。

### e. 練り置き時間

直射日光を避け、無風状態で60分以内として下さい。

### f. ユニットタイルの紙剥がし

ユニットタイルを張り付けた後、速やかにスポンジ・霧吹き等で水を含ませた紙を剥がします。目地直しは、接着モルタルの軟らかいうちに行い、タイル配列の修正後は、その部分を再度入念に、たたき押えて下さい。

※接着モルタルの硬化が進行してから目地直しはタイルの接着を損ねます。掻き落して再度張り直して下さい。

### g. 目地の清掃

タイルの張付け後、しまり具合を見計り先端の尖った細いものを使用して、目地の清掃を行って下さい。特に伸縮目地部分はタイル小端を入念に清掃して下さい。

## (6) タイル目地詰め

### a. 事前点検

目地の通り、タイルの凸凹、色合いを点検し、異常のない事を確認して下さい。

### b. 目地モルタル

設計図書もしくは、監督者の指示に従い、市販の目地セメントを使用して下さい。

### c. 目地詰め

タイル張付け後、1日以上経過した後、接着モルタルが完全に硬化してから実施して下さい。

### d. 前処理

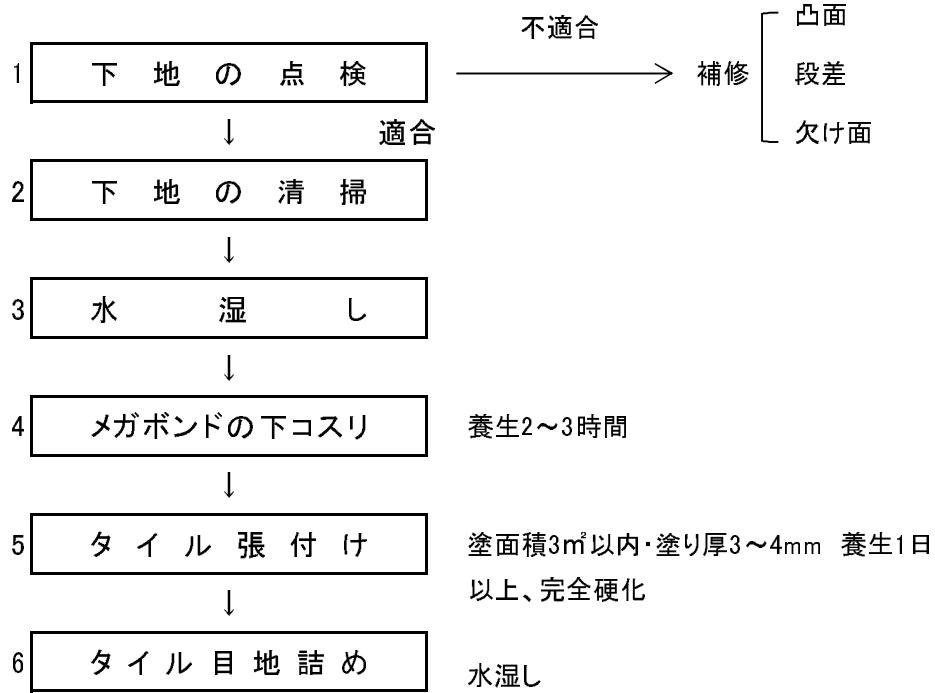
目地詰め時には、接着モルタルが乾燥しております。水湿しを必ず実施して下さい。

### e. 清掃

目地詰め後、速やかに水で濡らしたスポンジ等で、入念に目地セメントの付着物を拭き取ります。

※清掃後もタイル表面に著しい汚れが残る場合は、係員の承諾を得て、酸洗い(工業塩酸の30倍希釈液)を実施して下さい。但し、酸洗い前に十分に水湿しを行い、尚且つ酸洗い後、散水を繰り返し酸が残留しない様にして下さい。

## 工程図



尚、以上の要領については作業条件等により、協議の上変更する場合があります。